

経営比較分析表（令和2年度決算）

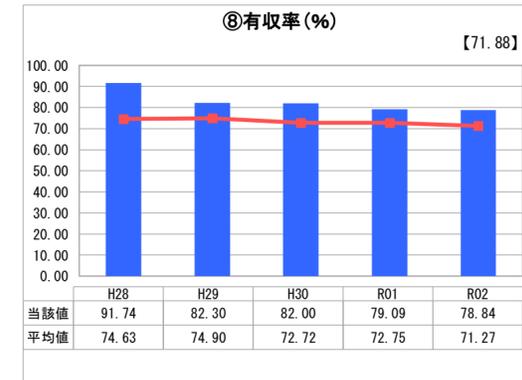
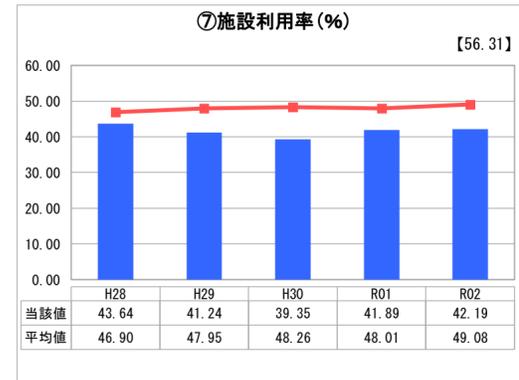
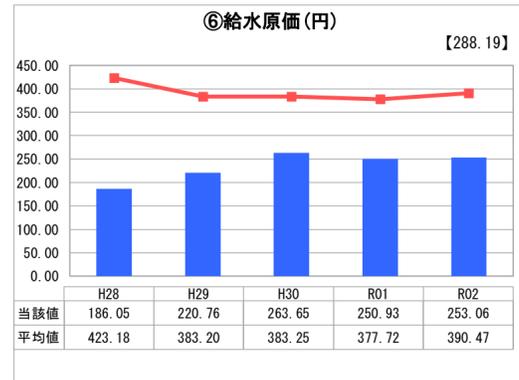
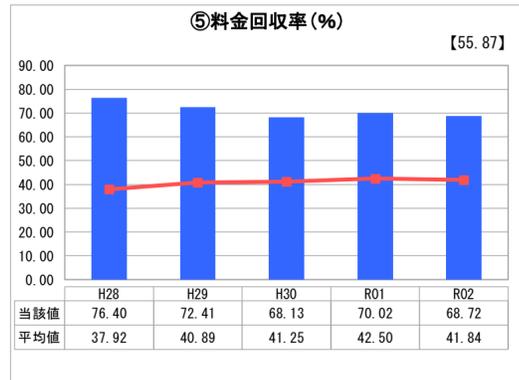
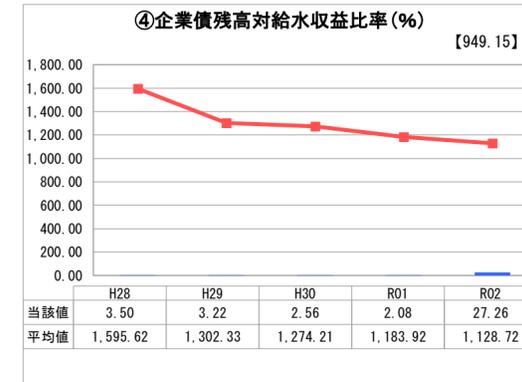
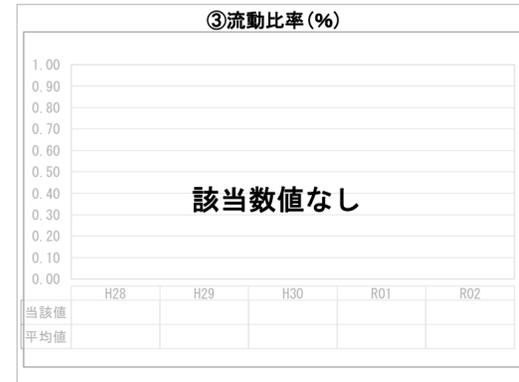
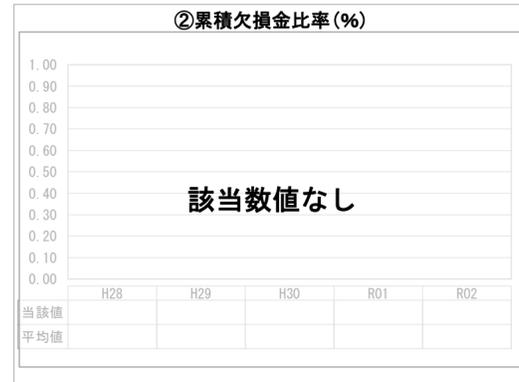
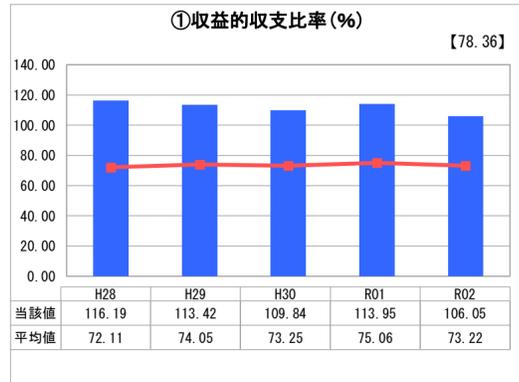
長野県 佐久穂町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	9.18	2,860	

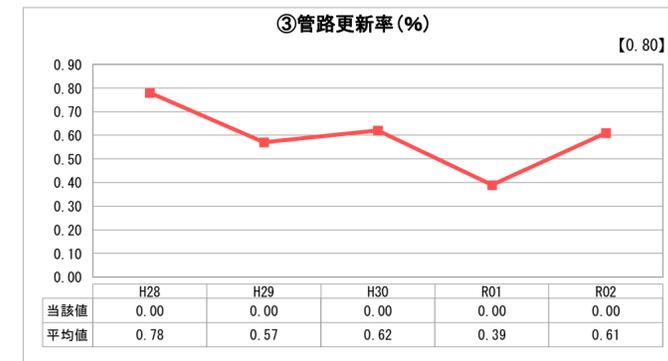
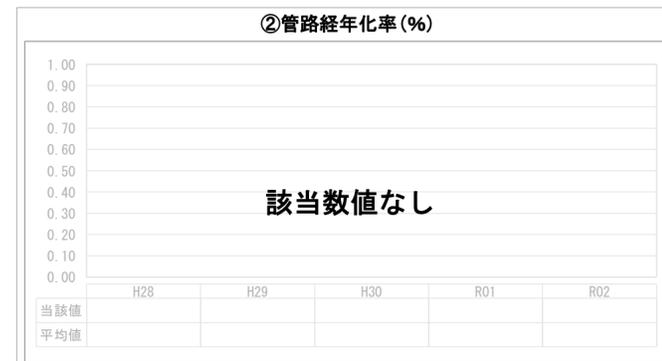
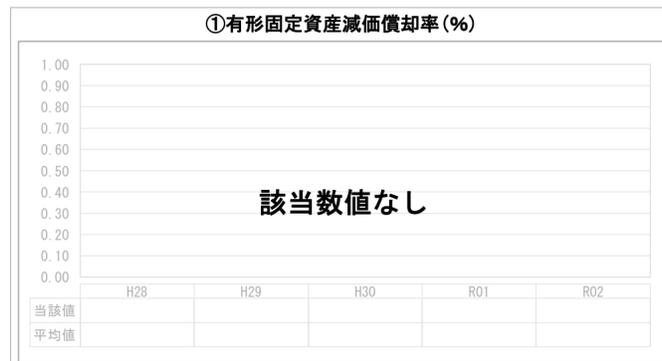
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,756	188.15	57.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
981	0.68	1,442.65

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%を上回っているが、老朽化対策等、投資のあり方について検討する必要がある。

④企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値より低い。投資規模や料金水準が適切なかを検討する必要がある。

⑤料金回収率の減少については、人口の減少等による有収水量の減少により、給水に係る費用が賸っていないため、営業外収入に頼っている。

⑥給水原価は、総費用・有収水量に著しい変化が見られずほぼ一定しているが、今後は、施設の老朽等による費用の増加による上昇が考えられる。

⑦施設利用率は、1日平均排水量に著しい変化が見られずほぼ一定している。今後は、適切な施設規模を把握し、統廃合・ダウンサイジング等検討する必要がある。

⑧有収率は人口減少に比例して有収水量が減少傾向にある。

2. 老朽化の状況について

③水道台帳の整備により、資産管理を進めていく。管路の更新等の必要性が高い場合は、経営改善の実施や投資計画等の見直しを行う必要がある。

全体総括

人口減少により有収率が減少していることから、今後も営業外収益に頼ることが予想される。経費の削減、施設規模の縮小などを検討し、安定した水の供給ができるように努める。